学校の教育目標：やさしく かしこく たくましく　経営方針：心の宝物に満ちた学校に

かさはら THE TEAM

令和 4 年度
笠原小学校
学校便り
4 月　8 日号

児童会：新しいリーダーによる新しいスローガンを楽しみにしています

春爛漫　新たなスタート

校長　鈴木　稔朗

49名が胸を張って巣立った卒業式から二週間。満開の桜と共に、新たに 50名の新入生を迎え、令和4年度の笠原小学校がスタートしました。出会いの喜びと別れの悲しみもまた、この時季ならではの学びです。職員の転出入のご挨拶は裏面の紹介をもって代えさせていただきます。春爛漫、桜の花びらは散りつつありますが、全職員一丸となり、子どもたちの笑顔と成長を支える太い幹であり続ける決意です。どうかよろしくお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

昨年度の終わり、卒業式直前のある日の夕刻、次のような出来事がありました。

転入してきた一年生のAさんが学年下校の途中、一緒に歩いていた子達とはぐれてしまい、途方に暮れていました。そこに三年生のBさんが通りかかり、寄り添いなぐさめました。しかし彼もAさんとはほとんど初対面。もちろん家も分かりません。困っていたところに、Bさんの兄のCさんが通りかかりました。彼は事情を察知するや、Aさんをなぐさめつつ、

「お家の近くには何がある？」「目印になるようなものは？」「どんなお店がある？」と、質問を重ねます。何問目かの問いに「近くのお店でご飯を食べた」と答えた内容から、Aさんのお家のだいたいの住所を察します。そうして、自宅とは全くの逆方向であるにもかかわらず、兄弟でAさんを守りつつ、そのお店をめざして引率します。お店にほど近く、ようやく覚えのある風景を目にしたAさんは「あ、わかった」と喜び、急ぎ足で家へ。Bさん、Cさん兄弟はAさんがお家の玄関に入るのを見届け、そのまま名も告げず、改めて遠く家路をたどりました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

彼らが遭遇した状況は、大人でもどうしたらよいか判断に迷う場面です。いや、それ以前に、見ようとしない、或いは見えてはいても、あえて自分の視界から外してしまう（「関わらない」という選択をする）人もいるでしょう。しかし、まだ三年生のBさんは、彼の「優しさのアンテナ」に触れたAさんの苦境に寄り添うことを選びました。兄のCさんは状況を打破する方法を自ら考え、実行しました。あらゆる他者をかけがえのない存在として尊重し、様々な社会的変化に対応し、豊かな人生を切り拓く。彼らの行動は、今後の学校教育で育成することが求められている力そのものです。笠原小学校の子どもたち全員の心の宝物として、磨き続けていきたい優しさと強さです。

この出来事を、私はAさんの担任から知らされました。彼女は、Aさんを守ってくれたBさん、Cさんの優しさと機転に心底感動し、喜んで熱く報告してくれました。そうしてその笑顔と思いの熱量のまま、Aさんの担任として、Bさん、Cさんの保護者の方にお礼の電話をしました。Aさんの保護者の方からも、改めてBさん、Cさんのお家にお礼の電話をされました。学校と双方の保護者の方の感動と感謝が輪となってつながりました。その日の晩、Bさん、Cさんは、同居のお祖父様、お祖母様含めて家族全員から賞賛されたと後で伺いました。

それがよいことであるときも、トラブルを乗り越えるときも、児童を真ん中に、学校と保護者の方の、温かな思いの輪がつながるとき、児童の喜びや成長のエネルギーが最大化します。逆に、悲しみは最小化します。今回のように、それができることが、児童の笑顔と成長を守るチーム笠原の最大の強みです。春、新しいスタートにあたり、保護者、地域の皆様にはますます強く思いの輪と絆を結んでいただきますよう、改めて心よりお願い申し上げます。